



井上一三

株式会社三菱地所設計

技術業務部

日本建築美術工芸協会 法人会員

北陸新幹線開通で話題の金沢から富山、黒部まで11月13日より2日間、バス移動で恒例の建物視察会に初参加させて頂きました。見学先の企画選定、充実した視察会に準備頂きました皆様へ改めて感謝の気持ちで一杯です。僭越ですが見学感想文を寄稿します。

・金沢海みらい図書館/シーラカンズK&H/2011竣工
純白な箱型に六千に及ぶ丸窓、外観は単純なつくりであるが、内部はとてもダイナミックな空間。丸窓から射し込む柔らかな光、細部に用いられる曲面デザイン、多種の書籍と僅かなタスク照明が見事に調和し和ませている。またデザインを生かす構造・設備の高い技術集積も見事である。外周部の窓に影響せずブレースを巧みに配置し、内部は300φの繊細な柱で屋根を支える構造形式、書棚からの床下吹出し空調など空間を生かす工夫が各所になされ技ありである。



・金沢市立安江金箔工芸館

箔打ちは打ち紙の粘弾性的性質により金も面内に延び拡がり、衝撃圧縮が納まると紙は復元収縮しその繰り返により極限まで薄い金箔となる。500年前から経験的な物理学に基づき、日本の美と技が完成されているのに驚くばかりである。

・金沢21世紀美術館/妹島和世・西澤立衛/2004竣工
今や金沢を代表する名勝、年間約150万人が訪れる。立地のみならず、特徴的な円形と大きなガラス面が従来の美術館と異なり来る人拒まず迎え成功している。また、内部は広さ高さの異なる矩形の展示室で構成され、外部と中庭から日差しを感じ美術館特有の閉鎖的な印象がなく、金沢散策に気持ちよい空間である。

・鈴木大拙館/谷口吉生/2011竣工

延床200坪足らずの小さな展示館であるが、3つの小空間を外部と内部の回廊で結ぶ。水景、壁、緑、光のシークエンスは、静謐で極めて気持ち良い。少ない要素と端正なデザインは、押付けがなく極めて控え目である。これぞモダニズム、日本美の象徴と思う。凡人の設計者は、なぜこのような緊張感ある空間を設計できないのか改めて悟る次第である。

・瑞龍寺

江戸時代建造の禅寺であるが、当初は周囲に濠を巡らし城郭であった。総門、山門から法堂まで一直線に配列し、左右に禅堂他をほぼ対称形に整え四周を回廊で結ぶ整然とした構成は、気持ちを落ち着かせる。

・TOYAMAキラリ/RIA・隈研吾・三四五設計JV/2015竣工

ガラス美術館、図書館等で構成される市街地再開発ビル。1階エントランスから6層の吹抜けはフロア毎の平面形状が異なり、壁と天井の木板ルーバーには傾きやリズムの装いがあり非常に複雑、視線も引付けられ新たな空間のイメージである。建築に目移りするのには施設が閑散としている為か今後の発展が楽しみである。

・発電所美術館/三四五建築研究所/1926竣工

旧水力発電所はその使命を終え美術館として再生され、敷地内にアトリエ、宿泊棟を整備し、創造と展示活動の理想的な施設である。高さ10mの大空間の展示スペースは圧巻であり、電力から芸術を造る機能に転換されても、上手に継続利用される魅力を感じた。

・前沢ガーデンハウス/横文彦/1982竣工

広大な敷地にマナーハウスを彷彿させる佇まいに改めて感銘を受けた。ラウンジ空間は日本民家を暗示した柱と梁で構成され、上層の部屋と一体感を持たせている。開口部、階段、照明など細部にわたり極めて完成度の高い統一あるデザインが施されている。設計当時はポストモダンの全盛期であったが嫌みのない装飾、日本的な繊細なデザインでまとめられ30年の年月が経ても品位を感じられるのは流石である。

東京に戻りGoogleMapsで空から2日間を振り返り探訪。何れも建物配置の美しさに改めて感銘を受けました。

